



11月10日「はしっこ同盟周遊モニターツアー」
黒松内そば打ちサークルとのそば打ち体験より

B2

ニュースレター

2022/12/29

～次回の観光協会主催イベント～
冬のスノーシューハイク

はしっこ同盟周遊観光ルート 開発はじまる

皆様も新聞やテレビの報道で「はしっこ同盟」のことは既にご存じかと思いますが。後志、渡島、胆振管内の境界に位置し、隣接している黒松内町、豊浦町、長万部町で構成する連携会議が2019年4月に結成されました。この3町同盟をはしっこ同盟と呼んでいます。

観光分野では、2030年の北海道新幹線長万部駅開業を見据え、3町の観光資源を活かした周遊ルートの開発に取り組むことを目標としました。しかし、コロナ禍にあり、昨年までは思うような活動を興すことができませんでした。今年度に入り、3町の同盟事務局や役場観光担当者、観光協会職員が集い、それぞれの町で現地調査を実施し、観光情報の共有や課題の抽出をすることができました。また、広域周遊ツアーの開発においては、道内観光地域づくりのコンサルティングに定評がある(株)北海道宝島旅行社に協力を依頼し、今後の集客が期待できるアドベンチャートラベルの旅行形態にマッチした受入体制を見据えながら、11月にモニターツアーを実施しました。

会議を重ね、道内の国立公園や観光地では体験できない、農山漁村での地域交流を重視した、はしっこ同盟ならではの旅をつくることが同盟3町の目指すツアーだというイメージ共有や方向性が定まってきました。今後は、旅行会社等を介してツアー商品を試験販売しながら、プログラムの磨き上げを図る予定です。ようやく一歩が踏み出せましたが、これからが本番です。3町が一体となり、連携強化に努めてまいります。(事務局長・本間)



こちら黒松内町文化部 Vol.3 ～写真倶楽部～

今年度からの新コーナー。黒松内で活動している文化系サークル取材します。第3回は“写真倶楽部”です。 ページ2

じり通信 No.26 文：山本竜也

山菜が大好きな筆者が今回はナメコ採りにでかけた。しかし森に入って目にしたのはある驚きの光景だった。 ページ2

くろまかない飯

レシピ：歌才自然の家

今回は館山シェフにネギ塩ダレの焼肉丼を教えてもらいました。冬を乗り切るスタミナメニューです。 ページ3

フットパスクラブ通信 Vol.15

10月22日に行われたグルメフットパス・イベントのレポートです。 ページ3

フットパスの輪 Vol.3

第3回はえりも・天馬とんがりロードフットパスについて中岡利泰さんに寄稿していただきました。 ページ4

<<協会主催・協力イベント>>

冬のスノーシューハイク 2月開催予定

降り積もり、固まった雪の上をスノーシュー、もしくは和かんじきで歩くイベントです。どこを歩くかお楽しみに～♪

冬のフットパスイベント 3月5日(日)

中央分水嶺を通過して黒松内・長万部・豊浦の3町の町境を目指します。

第3回は<黒松内写真倶楽部>。

代表の菅原正史さんに写真倶楽部の活動についてお話を伺いました。



菅原正史さん
通称“まみさん”

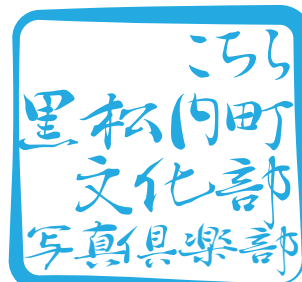
黒松内町は絵になる自然の風景や希少な野生動物、個性的なモデルや可愛いペットなど、被写体の宝庫です。

アナタが見つけた一瞬の景色・表情をカメラに収めてみませんか？

これから始めてみたい方から本格的に写真編集をしている方まで幅広く入部の募集をしています。

当倶楽部ではその方の技量に合った活動をサポートします！

またテクニック向上を目的としたイベントも開催していますので、気軽にお問い合わせください(=^・^=)ノ



令和4年 晩夏の蕎麦畑 撮影：菅原正史氏

<黒松内写真倶楽部概要>

お問い合わせ先：

黒松内町教育委員会 (72-3160)

入会対象者：どなたでも可

活動日：月1回程度

活動内容：写真展へ向けた例会、町内での写真展への出展、様々な風景やモデルの撮影、技術の向上、意見交換など

<事務局>7月から新代表になった

“黒松内のニコラス・ケイジ”

こと菅原正史さん。取材中は親切丁寧な上にとても優しい印象

でした。そんなまみさんと一緒に

写真を楽しんでみてはいかがでしょうか！

(事務局・古本)

じり通信 No.26 「クマ糞だらけ」

文：山本竜也

前号で、ブナ林のナメコについて書いた。過去3年住んでいた釧路にブナは生えておらず、ナメコもほとんど見かけなかった。今年こそはと思っていたが、10月中旬から下旬にかけて、仕事が休みの日には天気が悪いというサイクルに陥った。休みと晴れが重なった11月某日、ようやくナメコ採りに行けた。すこし遅かったが、南後志の森を一巡りすると、鍋料理を3回できる量が採れた。

この山域を歩くのは4年ぶりだった。驚いたのは、ヒグマの糞があちこちに落ちていることだ。ナメコ木よりもクマ糞の方が多い。冬眠前に食いだめているのだろう。コクワやブナ、ブドウの実がそれと分かる形で排泄されている。

標茶町や厚岸町で牛を襲う「OS018」なるクマがいる。数年前からメディアをずいぶん賑わせている。釧路に住んでいたとき、私は、あのクマの出没範囲に頻繁に出掛けては、山菜やキノコを採っていた。しかし、クマ糞を見たのは一回だけ。足跡や爪痕、食痕は見たことがない。もちろんクマ自身に会ったこともない。山中で大きな音がしても、「ああ、シカか」と思うだけだった。

南後志の山域の緊張感は比べものにならない。「危ないから行くのやめたら」という忠告も聞こえてくる。しかし、黄色く染まった葉と苔むした白い幹のブナの純林、つやつやした宝石のような天然ナメコたち。クマ糞がいくら転がっていても、やはり、南後志の森の魅力は大きい。



ブナの殻が詰まったクマ糞

くろまっない飯

～簡単ネギ塩ダレの焼肉丼～

黒松内の料理人にまかないレシピを教してもらう企画！
第7回目はレストランキリカの館山シェフに、どうしてもレストランでは出てしまうという半端なお肉を使ったレシピを教してもらいました。

【材料（2人前）】

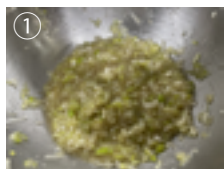
●タレの材料

- ・ネギ(みじん切り) 1.5本
- ・ごま油 大さじ2
- ・はちみつ 大さじ1
- ・しょうゆ 小さじ1
- ・塩 小さじ1
- ・にんにく 小さじ1
- ・酢 小さじ1
- ・味の素 小さじ1/2

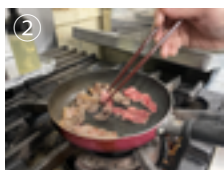
- ・牛肉 200g
- ・ごはん 丼2杯

- ・青ネギ お好み
- ・白ごま お好み

作 り 方



①タレの材料をすべて混ぜ合わせてネギ塩ダレを作る。



②フライパンで牛肉を両面焼く。

この際に軽くコショウ（分量外）をふる。



③丼に盛ったごはんの上に焼いた牛肉をのせる。

④牛肉の上に①で混ぜ合わせたタレをかける。

⑤仕上げに青ネギ、白ごまをのせたら完成！



館山シェフからのコメント

焼肉丼はしょうゆ味ベースになりがちなのでたまには気分を変えて塩味でどうぞ！
あまりネギを細かく切りすぎないのがポイントです。

これからの寒い季節を乗り切れそうなスタミナメニュー！
ネギ塩ダレは他にも使い道がたくさんありそう。是非真似して料理の幅を広げてみてください。（事務局・澤田）

フットパスクラブ通信 Vol.15

10月22日開催「くろまつない秋のグルメフットパス」レポート

一般参加者：14名（うち町内2名）、フットパスクラブ会員：7名、スタッフ及びガイド：7名の総勢28名が参加した今回のイベントは、参加者により楽しんでもらうため、新たな試みを多く取り入れた企画となりました。テーマは「ゆっくり歩く」「道中での発見」「クラブ会員の主体性を向上させる」の3つ。いつもよりゆっくり時間をかけて歩こうという会員の意見を取り入れ、通常よりも短い3.5kmのコースに設定。これまでのイベントで歩いたことがない、西熱原野にある佐藤悦郎さんのご実家周辺の道を選択しました。さらにフットパスクラブ会員には、イベント当日に参加者と歩いてサポートするだけでなく、イベント前日に手作りかぼちゃケーキなど季節の野菜を使った料理の仕込みも行っていただき、当日に備えました。

そして、天候に恵まれたイベント当日。辻野健治さんのガイドで、中の川のバス停からほど近い場所にある丸山神社をスタート。道中キハダの実や山ぶどうを採取し「見る」「触れる」「嗅ぐ」など、五感で自然をゆっくり感じながら歩きました。各休憩ポイントでは黒松内の自然の恵みを活かした手作りキハダ茶や山ぶどうサイダー、また、黒松内の名店「そば屋この花」で販売している蕎麦プリン、会員さんたちが焼き上げたかぼちゃケーキに舌鼓を打ちました。西熱原野のゴール地点では全員で焚火を囲ってランチ。会員さんたちによる手作りキノコ汁、揚げ芋やユウガオの漬物と地元産チーズやフランクフルトなどを振舞い、参加者には黒松内グルメと自然を満喫していただけた一日になったかと思います。また、今回お手伝いいただいた会員のみなさま、誠にありがとうございました。新企画のため色々と反省点はありましたが、次回も新たな試みを取り入れたイベントに挑戦しますので、よろしく願いいたします。



フットパスの輪 vol.3 「えりも・天馬とんがりロードフットパスの歴史」

文：中岡 利泰（えりも町郷土資料館 北緯42度の会 会員）

えりも町のフットパスの代表格は「猿留山道（さるるさんどう）」です。江戸時代の末、寛政十一年（1799）に幕府により開削された道です。当時、南下を進めていたロシアから日本を守るために造られました。

北海道の名付け親といわれる松浦武四郎、日本全国を測量した伊能忠敬らが猿留山道を通っています。山道を開削する際、どのルートにするか？その任を担ったのが最上徳内でした。ルートを模索したであろう地図が残されています。1997年頃「日高山脈の山中に重蔵林道があったらしい」という町民のお話から、山道探しが始まりました。森林組合で働いている人は「昔、下草刈りしてたぞ〜」、山歩きのでき人は週末に山に入り「ここかな〜」と探しまわった。有志を募り、背丈よりも高いネマガリダケをかき分け、山道跡らしき道跡を、ダニを身にまとい探したのは面白かった。

2000年には「日高の山道シンポジウム」が開催され、猿留山道と類似山道は、江戸時代、ロシアの南下政策に対抗する江戸幕府の北方警備の主要設備として整備されたもので、歴史的にも重要であり、文化財として価値あるものと認められたのです。

猿留山道をよみがえらせようと「猿留山道復元ボランティア」が始まり、えりも町民と札幌などからの参加者が、共にササを刈り、汗を流し、楽しんでいううちに、山道は少しずつ復活してきました。夜の交流会は良き思い出となり、山道が、フットパスが取り持つ縁は、全道に全国に広がっています。

フットパスは、それぞれの地域になじんだ特徴があります。歴史的なもの、新しい文化を創造しているもの、そのすべてが、その地に脈々と続く人々の歩みとつながっています。

今回は 上富良野 野山人 代表 佐川泰正さん です。



えりも町郷土資料館
北緯42度の会 会員
中岡 利泰さん

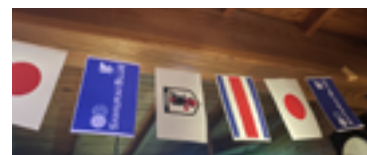
11月27日開催「スポーツバー黒ひげ」キックオフ！！

「スポーツで町内を盛り上げたいっ！」と、観光協会事務局長が前から温めていた企画「スポーツバー黒ひげ」を、サッカーワールドカップのタイミングで決行しました！！

最近ではランチ営業しかしていなかった「軽食喫茶 黒ひげ」をスポーツバーっぽくするため、店内に国旗やサムライブルーのペナント、サッカー選手の写真を飾り付けるなどプチ改装。さらにチラシを作り、SNSで開催告知等の宣伝活動を行いました。

当日は夜7時にキックオフするため、夜6時から開店。続々とお客さんが来店し、スタッフを含め約20名ほどが集まりほぼ満席に。試合が始まると60インチの大画面が映し出す迫力の映像と、良質なスピーカーで臨場感溢れるサウンドが相まり、店内は日本代表の一挙手一投足に大興奮。お酒も進み、事前に準備していたおつまみもあっという間に売り切れる大盛況ぶり。「食べるものが無ければ盛り上がりだろっ！」と急遽黒ひげのマスターが追加サービスで焼きそばやナポリタンを差し入れ、お客さんのお腹もテンションもマックスとなりました。黒松内で初めてスポーツバーを開催したことに参加者からは「マスターの料理もおいしかったし、何と言ってもみんなで一緒に応援出来て楽しかったです。また、次回も開催してほしいです。」と嬉しいコメントをいただきました。

今回は 23年3月8日から21日までに行われる World Baseball Classic で開催を予定しておりますので乞うご期待です。



観光協会 HP にて「B2」バックナンバーがご覧になれます。 www.bunatatourism.com

印刷版をご希望の方は観光協会までご連絡下さい。

発行人：一社) 黒松内町観光協会 発行日：2022年12月29日 次回発行予定は3月末

TEL：0136-72-3597 FAX:0136-75-7070 MAIL： bunatatourism@gmail.com